

大崎の米づくりをどうしようするのか！

新しい米づくりに取り組む



中倉 毅 議員

日照時間は

平年の48%

中倉議員

出穂後20日間の日照時間(登熟期間)は過去3年平均で78時間であるが、昨年は38時間で約半分の日照時間となり、乳白米や心白米が増加し、収量、品質低下の要因となった。今後は普通水稲へ変える考えはないか。

早期水稲を継続する

町長

本町の早期水稲は防災営農、超早場米、転作奨励金等の利点があるので、当分は早期水稲を継続して推進する。

超早場米の

特長を生かせ

中倉議員

早期水稲を継続して推進するのであれば、超早場米として付加価値を付けて有利販売できるように農協に働きかけるべきではないか。

農協と一体的に

取り組んでいる

町長

農協の稲作部会の中で生産から販売まで一体的に取り組んでいる。

価格下落対策は

中倉議員

町長は施政方針の中で小規模農家が元気を出せるよう支援すると言っているが、具体的支援を

しているのか。

10アール

1785円支払う

町長

予算的には、水田農業推進協議会として、国の

新しい米づくりの

施策は何か

中倉議員

県総合開発センターで

稲作構造改革促進緊急対策で支払う予定である。

は、近年のコシヒカリは、出穂の変動が大きく、品質、収量が不安定であると分析している。これに替わる品種をどうするのか。

イクヒカリを

普及する

町長

早期水稲の新品種として、イクヒカリの栽培体系を実証する。また、田植時期、栽植密度、施肥等の新技術の研修会を実施したい。

昨年の大崎の米は、収量、品質、等級とも最悪の状況であった。九州農政局統計部が地域農家の経営調査を実施しているが、それによると10アール当たりの収入は約6万5千円、経費が約6万円で所得はわずか5千円となっている。この収量、品質低下の要因は何か。

日照時間不足

町長

日照時間が少なかったことが要因の一つと聞いている。



左側がコシヒカリ、右側がイクヒカリ